純田薫の探偵部

サムイサムイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
純田薫の探偵部

【Ｎコード】
Ｎ１１０２Ｔ

【作者名】
サムイサムイ

【あらすじ】
純田薫が大人の事情、つまり様々な事件に首を突っ込んで解決するという物語である…

出会いは…　（前書き）

謎解きはホニャララのあとでに影響されて書き始めました、温かいめで見守って下さい

出会いは…

5月夏に向かって暑くなっていく時期だ、個人的には梅雨の前に暑くなるのは意味が分からない

薫「あ～、部活どうしよう～」

僕の名前は純田（すみた）　薫（かおる）

中学二年、転校生

5月というびっみょうな時期に転校してきてしまった

ちなみに賀田霧中学校

名前てきには女子にも男子にも受け取れる

でも男子、そして優柔不断のネガティブ思考

たまに世界の終わりを叫んだりすることもしばしば

僕は周りの人に「純粋だね～」と言われるが単にだまされやすいだけだなんだ

それはそうとどの部活に入ろうか…

以前はディベート部で体力はない、よって文化部に絞られる

この学校には文化部は5つある

吹奏楽、茶道、機械、料理生活、探偵部

１つだけ腑に落ちない

探偵部だ

薫「とりあえず行ってみるしかないないか…」

そうしてこれが僕と探偵部の出会いだった…

探偵部（前書き）

探偵部を見学にいった薫はあることに巻き込まれる

探偵部

薫「ここが探偵部か」

???「どいたどいた！！」

薫「え！？」

ガン！・・・ドスン

???「いって～、ちゃんと前見てあるけ！！！」

薫「すいません・・・、ってそれはあなたのほうじゃないんですか！？」

???「それはそうと」

薫「話逸らさないでください」

???「君は何でここにいるのかい？あんまり見ない顔だけど？」

薫「え、僕は探偵部の見学に来ました」

???「そうだったのか！すまないすまない、さぁ、中にはいりたまえ」

薫「おじゃましま～す」

???「いや～、ほんとに君のような人を待ってたんだよ～」

薫「いや、あのまだ入るって決めてませんよ？」

？？？「そんな水臭い、今日から君は僕たちのなかまだ！」

薫「ほかの皆さんは？」

？？？「それより、君の名前は？」

薫「純田　薫です（また話逸らしたし）」

？？？「そうかそうか、僕は香西（こうさい）　哲也（てつや）この探偵部の部長である」

探偵部　2（前書き）

部長の香西になんとか会うことのできた薫
そして告げられたのは・・・

探偵部　2

薫「香西さんはここでなにをしてるのですか？というより探偵部とは何をするのですか？」

香西部長「私は、今までの資料の整理をしていただけだよ。探偵部とは、学校内で起こる小さな事件でも解決しようとする、いわゆる「よろずや」ってやつだ」

薫「部長、その箱の中ジャンプですよね」

香西部長「え！？ええ？？そ、そんなわけないな～、あはは、これでも部の部長だよ？いわゆる大統領並の絶大な権力を部内で振るうことが許されてる人がそんなことするわけないじゃないか！」

薫「部長、うそついてます。人間、過去のことを話すと左を見ますが、今の部長は右を向いていました、これは明らかにうそをついたという証拠です。しかも、この動作は無意識に起こるのでやめることはできません。」

香西部長「え！？そうなの！？そんな人間ってわかりやすかったの！？・・・　ごほん、取り乱してしまって悪かったね、君はかなり筋がいい、だから君にこの事件を協力してもらいたいと思う」

薫「なんですか？」

香西部長「なんだか、最近、女子更衣室に入って下着を盗んで2，3日後に返すやつがいるらしい。まぁ、どこにでもよくある話だが、ある特定の女子のやつは・・・」

薫「よく盗まれるんですか？」

香西部長「いや、その全く逆、盗まれないんだ」

薫「いや、普通逆ですけど・・」

香西部長「きっと、可愛くないんだろ？」

薫「僕は知らないです」

香西部長「で、そんでもって、私の推測ではとりあえずある特定の女子のものだけ盗まないというのは犯人は入念な下見を行っている」

薫「ほうほう」

香西部長「ということは、結果的に近くにいたり、入りやすい環境に当たる人たちが盗んでるということになるのでは？」

薫「はいはい」

香西部長「ということで、私は今から調査を行おうとしていたのだよ、現場検証もついでにおこなうつもりだ」

薫「はいはーい」

香西部長「なんだい？」

薫「犯人わかりました」

香西部長「一体誰なんだ！？」

薫「あなたでしょ、だって現場検証とか明らかに女子更衣室にはいりたいだけ・・」

香西部長「ちがう、断じて違う！！私はジェントルマン、またの名を「英国紳士」とか言ってるそんじょそこらの連中とは違う、明らかなる紳士・・」

薫「あ、そうですね。見た感じそんな勇気もなさそうですし・・・、安全？（笑）それよりも、多分周りの女子の下着を盗んでいるのは、本当の狙いのものを隠すためではないんですか？」

香西部長「ええ！？あー、やっぱりか、そうそう、僕もうすうす気づいてはいたんだが、確信がなくってね。その分君は偉いよ、確信なくても言うなんてね。さすがだ！」

薫「（負け惜しみ？）」

探偵部　2（後書き）

こうして
かくして
次に続く・・・・

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1102t/

純田薫の探偵部

2011年10月8日22時11分発行